

輝け 田底っ子

第14号

文責：校長 益永 一幸

令和4年度 田底小 チャレンジ目標

①最後までがんばろう ②上手に伝え合おう ③自他を大切にしよう



「弥生時代」→「古墳時代」にかけての田底に思いをはせて

5月30日～6月10日の2週間、本校に「木村皇世」先生が6年生を中心に教育実習を行っています。6月8日（水）、6年社会「歴史」の実習生研究授業を行いました。縄文時代から米づくりが盛んになった弥生時代にかけての授業でした。狩猟生活から米づくりを中心とした農耕生活・定住生活への変化の中で、「むら」から「くに」への変化を様々な資料を通して学ぶ、素晴らしい授業でした。

そこで、私がふと気になったのは我が地域である「田底」はこの時代どうだったのかということです。遠い昔のこと、自分たちとは違う世界という見方から、「今」と比べたり、「自分の地域」の歴史を調べたりすることで、子どもたちは歴史を通して「田底のすばらしさ」を学ぶことができるのではないかと考えました。

やはり、田底は「弥生時代から古墳時代」にかけて、素晴らしい歴史が残されていました。



平畠支石墓



慈恩寺経塚古墳

○「田底」の名の由来

田は耕作して稲を植える土地、底は「した」の下部。合志川に沿った水田地帯の低いところに位置し、大昔から米づくりが盛んであったことが推測できます。「米塚」という地区がありますが、それも米に由来する地区名だと思います。

○弥生時代「支石墓」・・・稲作文化の裏付け

田底には支石墓があります。支石墓は、遺体やかめ棺を埋葬した竪穴の上に支石を置き、その上に上石をかぶせる弥生時代の墓で、中国、朝鮮から伝来した文化です。約2千年前の弥生時代に稲作を基盤とした大きなムラが存在していたのではないかと推測されています。

○古墳時代「慈恩寺経塚古墳」・・・米塚にあります

円墳で県内最大の大きさで見られており、土器片や埴輪片も確認されています。当時の菊池川中流域の最大勢力だった可能性があります。